

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

平成 29 年 2 月 24 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	木質バイオマスボイラの新設プロジェクト
プロジェクト番号	KC0090
排出削減事業者名	株式会社モリチクリーニング
排出削減共同実施事業者名	株式会社 FT カーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	ホテルリネンサプライ・病院寝具工場 (住所：北海道亀田郡七飯町字峠下 70 番 14 号)
事業の概要	木質バイオマスボイラ 1 台を新設する。木質バイオマスを使用することによって、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2008 年度 722tCO2 2009 年度 2,312tCO2 2010 年度 2,312tCO2 2011 年度 2,312tCO2 2012 年度 2,312tCO2 2013 年度 2,361tCO2 2014 年度 2,361tCO2 2015 年度 2,361tCO2 2016 年度 1,624tCO2 (事業実施期間合計 18,677tCO2)
クレジット 認証期間	開始日 2008 年 12 月 8 日 終了日 2016 年 12 月 7 日
排出削減方法論	方法論番号 001-A 「ボイラーの新設」

2. 本実績確認の対象期間

2016年4月1日 ～ 2016年12月7日（第5回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	2,352tCO ₂ （2016年4月1日 ～ 2016年12月7日）
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること	<p>1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 第5回実績確認のため、N/A</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働確認 本実績報告期間において導入設備が稼働していることを、本実績報告期間におけるチップの購入実績とボイラー月報により確認した。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>1) モニタリング方法の確認 関係者への質問、チップ請求書の確認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、チップ使用量、含水率のモニタリングが実施されていることを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性 関係者への質問、チップ請求書等の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、チップ使用量、含水率の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。</p>

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J-クレジット制度モニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.2.6、チップ分析結果、及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
算定期間が移行期間内であること	本実績確認の対象期間は、2016年4月1日から2016年12月7日までであり、プロジェクト終了日2016年12月7日を超えないことを確認した。

5. 承認排出削減事業からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

木質バイオマスの単位発熱量のモニタリング方法・根拠資料について、分析報告書から J-クレジット制度のデフォルト値（木質チップ、針葉樹、その他針葉樹又は不特定ないし複数の針葉樹）に変更している。単位発熱量が小さくなったため、排出削減量も減少していることを確認した。

6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算 40,728GJであることを確認した。

また、排出削減量の変動の理由は、バイオマスの発熱量を供給会社の分析結果から、J-クレジット制度のデフォルト値（木質チップ、針葉樹、その他針葉樹又は不特定ないし複数の針葉樹）に変更したためである。